

増え続ける八幡市の基金残高 2012年度決算

3年連続で7億円規模の増加

市民のくらしを守る施策に活用せよ 日本共産党

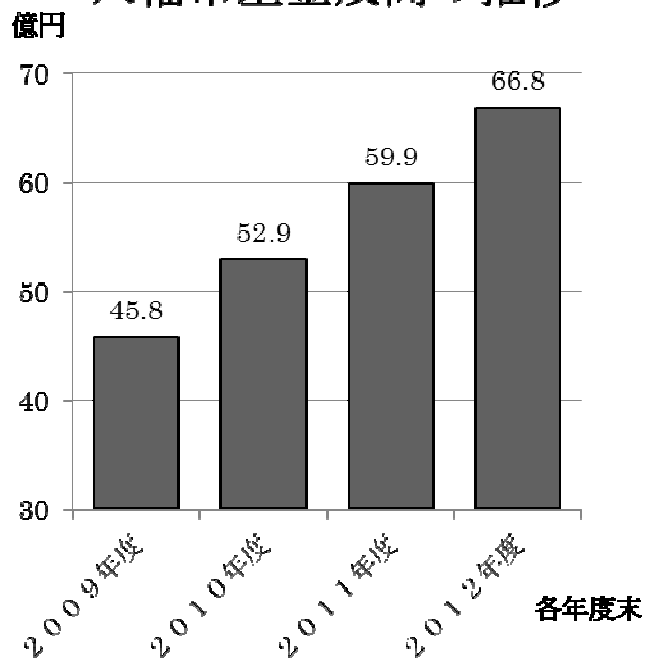
八幡市の2012年度決算が、9月30日から市議会決算委員会で審議されています。決算書によれば、八幡市の貯金といえる基金の総額は年度末(13年3月末)時点で66億8000万円となり、前年度比6億9000万円も増加しました(企業会計方式をとる下水道基金2億9000万円を含む)。

八幡市の基金は09年度末の45億8000万円から3年間で21億円も増えました。年間7億円ものペースで増え続けています。団塊の世代の職員の大量退職が続いていることが大きな要因です。

用途が限定されない財政調整基金は2億円増の18億円。標準財政規模の10%が目安とされており、八幡市に当てはめれば14億円程度ですが、これを大幅に超過しています。そのほかにも公共施設整備基金18億5000万円、地域活性化基金3億7000万円などがあり、日本共産党は、こうした基金を活用して、市民向けの施策充実のための財源に回すべき

だと主張しています。子どもの医療費を中学卒業まで拡充するのに必要な財源は4000万円、国保料の値上げ回避には8000万円あれば可能です。

八幡市基金残高の推移



残業月平均100時間
一、二審判決によると、同店員は2007年4月に同社へ入社し、大津市の店舗で勤務。同年8月に急性心不全で死亡しました。死亡前4カ月間の時間外労働は月平均100時間を超え、08年12月に労災認定されました。(時事通信より)

「日本海庄や」過労死 役員に賠償命令 最高裁
飲食チェーン店「日本海庄や」の店員24歳が死亡したのは長時間労働が原因として、京都市の両親が同店などを全国展開する「大庄」(東京)と社長ら役員4人に計約1億円の損害賠償を求めた訴訟で、最高裁第3小法廷は9月26日までに、同社側の上告を退ける決定をしました。同社と役員4人の賠償責任を認め、計約7800万円の支払いを命じた一、二審判決が確定しました。決定は24日付。

